



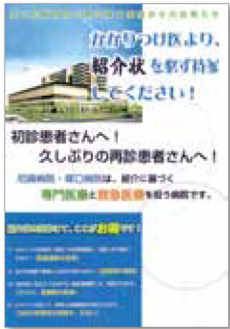
新病院に向けて

地域医療
連携部長



リレーメッセージ

～阪神間の医療連携スタイルが変わります～



★ 紹介状を中心とした高度専門医療の提供

県立尼崎総合医療センター(仮称)の開院まで半年余りとなりました。新病院は、かかりつけ医からの紹介に基づく高度専門医療と救急医療を担う病院として生まれ変わります。新病院では、地域医療機関内での診療機能に応じた役割分担とその連携が重要となります。現在、塚口病院と尼崎病院の地域医療連携室では、新病院が阪神間の医療連携の中心的な役割を果たすべく、一から業務の見直しを進めています。



県立尼崎病院 地域医療連携部長
(地域医療連携センター長) 齋田 宏

★ ICT化医療連携システムによる診療情報の共有

阪神地域では、阪神医療福祉情報ネットワーク「h-Anshin むこねっと」がすでに稼働しており、かかりつけ診療所など複数の医療施設間にて患者さまの医療情報の共有ができるようになってきました。これからの医療連携を進める上で有力な手段であり、一層の利用を推進していきたいと考えています。

★ 地域内の複数医療機関での診療

新病院では重症の救急患者さまの入院が多数見込まれることから、長期入院により病床数が不足することが懸念されます。このために、地域医療連携センターでは、入院早期から看護師、医療ソーシャルワーカーが退院支援・調整を行い、円滑な早期退院ができるようにしていきます。退院後は、在宅、地域包括ケア病棟や療養病床を有する病院への転院、介護施設への入所等となりますが、関係医療機関や施設との調整を密に行っていきます。このように、今の医療は一病院で完結するものではなく、地域医療機関との円滑な連携による地域内完結型医療が求められます。これをさらに発展させて、地域包括ケアシステムの構築を目指していきたいと考えています。

新病院では医療相談も行いますので療養生活の相談や医療、福祉に関すること等、気軽に声をおかけください。我々地域医療連携センターの職員は、阪神地域の拠点病院としての役割を果たせるよう、努めていきたいと考えています。



県立塚口病院
地域医療連携部長
(地域医療連携室長)
北野 則和

次号予告

次号は、
「県立尼崎病院 福井英二 薬剤部長」と
「県立塚口病院 寺川則子 薬剤部長」
からのメッセージです。